

令和4年度 学校教育学科 学校推薦型選抜（一般） 講評

課題文：想田和弘「体験的『反知性主義』論」（内田樹編『日本の反知性主義』、晶文社、2015年、所収）より一部を改変して使用した。ドキュメンタリー映画作家の筆者が、テレビ・ドキュメンタリーの制作現場における「台本至上主義」と、それが「反知性主義」に陥る事情を論じている。

設問一 課題文の筆者は、テレビ・ドキュメンタリー制作における「台本至上主義」には反知性主義が巢食っていると述べています。その理由を課題文から読み取り、二〇〇字以内でまとめなさい。

【 評価のポイント 】 課題文全体に散在する「知性的」および「反知性的」を意味するキーワードや言い回しを適切に組み合わせ、論理的な記述ができている解答に高得点を与えた。

【 講 評 】 設問に的確に答え得た解答も少なくなかったが、テレビ・ドキュメンタリーの制作現場が「台本至上主義」になりがちな事情と、それゆえに「反知性主義」に陥ることとが論理的に接合できていない解答が目立った。また、いくつかの指摘が羅列され、文脈的なつながりが弱い解答も見られた。

設問二 傍線部の「誠実に『世界』を探求しようとする」とはどのようなことか、課題文の趣旨を踏まえながら、自分の体験や見聞を交えて六〇〇字以内で論じなさい。

【 評価のポイント 】 課題文の趣旨を誤解なく捉えたうえで、その趣旨に合致する適切な「体験や見聞」を選び、論理的かつ説得的に論述できている解答に高得点を与えた。

【 講 評 】 設問に的確に答え得た解答は必ずしも多くなかった。課題文の趣旨は理解できていても、適切な事例を探すのが難しかったようである。その結果、「失敗をおそれずにやってみることの大切さ」、「自分の信念をつらぬくことの大切さ」、「臨機応変で柔軟な対応の大切さ」といった「人生訓」に帰着する解答が目立ったが、これらの解答は課題文の趣旨には沿っておらず、相対的に低く評価した。他方で、文章力や論理展開に弱さがあっても、課題文の趣旨に多少なりとも親和性のある場面に言及した答案は、相対的に高く評価した。

以上